

文教厚生委員長報告(概要)

・議案5件を原案可決 認定2件を認定
 請願1件を採択

【議案第38号】南島原市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について

【質疑】本市で大体何施設ぐらい対応できるようなところがあるのか。

【答弁】7月時点の調査で、31園のうち、実施希望が9園、検討中が9園との回答を得ている。

【質疑】親が負担するお金は。

【答弁】利用料は各施設で設定をするので、現時点ではまだ決まっていない。(討論はなく、採決の結果、原案可決)

【議案第41号】南島原市議会議員及び南島原市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例について

【質疑】ポスターの実質1枚当たりの単価はいくらで、枚数は何枚なのか。

【答弁】今回、改正後は実質1枚当たり2,185円が上限。枚数は直近の選挙と同じ掲示数で変更なければ198か所分の計算になる。(討論はなく、採決の結果、原案可決)

【議案第47号】令和7年度南島原市一般会計補正予算(第4号)

【市民生活部関係分】
 【質疑】外国人在留者の人数は何名か。

【答弁】令和6年中に転入された外国人は、約200人。転出された方が133人。現在500人前後が市内にいます。

【質疑】南島原市に来て失踪された事例はあるのか。

【答弁】把握していない。

【教育委員会関係分】

【質疑】寄附金15万円の使い方は決まっているのか。

【答弁】寄附金は、深江・

小林・大野木場小学校の図書購入費に各5万円使用してほしいと寄付された。

【質疑】小中学校の屋根の改修は何年ペースで改修するのか。

【答弁】屋根の防水関係は、10年から15年が耐用年数でその期間をスパンに計画している。毎年5月に各学校の修繕箇所を担当と回り、年数以下であっても亀裂・雨漏り等あれば優先順位を変更して実施している。

【質疑】世界遺産センター整備事業の2,298万8千円の財源内訳は。

【答弁】年度の当初予算で計上した財源と合わせて調整をした結果、国庫が1,648万2千円増加、起債についても1,650万円の増額、調整により一般財源がトータルとしては999万4千円減額となっている。

【反対討論】

今回の補正予算にも世界遺産センター事業が計

上されている。基本設計の段階から毎回補正・修正を提出しているもので、反対討論とする。

【賛成討論】

この世界遺産センターに対して、補助金・交付金等を含めた上で、市民への還元という形として、これは今するべき工事だと思ふ。これを建設することによって、地域の活性化にはなると思ふ。皆で話し合いを議論しながら進めてほしいので、賛成討論とする。

(起立採決の結果(賛成4・反対1) 原案可決)

【認定第2号】令和6年度南島原市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

【質疑】令和6年度上位疾患第5位に脳梗塞が入っているが、近隣市と県全体ではどうか。年間医療費が、本市は長崎県の平均より低い傾向の要因はなぜか。

【答弁】長崎県全体では、

上位疾患に入っていない。近隣市でも10位までに該当していない。

1人当たりの年間医療費が低いという分析は特にやってないが、県内の医療費をクロス表で示すと、大きい市町村が高い傾向が出ており、県全体の医療費を引き上げているのが現状。

【質疑】財政調整基金の目標設定額は立てているのか。

【答弁】基金については、県から基金保有の指示はあるものの、目標設定額の指示はなく、特に立てていないが、今回の決算剰余金とか、前年度の決算剰余金の2分の1以上積み立てるということで決まっているので、その分を毎年積立てている。

【認定第3号】令和6年度南島原市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

【質疑】コロナ明けに全国的には受診控えがあつて、結構赤字に転落している

病院が多いが、南島原市においては、比較的受診控えみたいなものが起こるような説明で間違いないか。

【答弁】徐々に解消している。ただ増加の要因としては、被保険者数が年々増加しているの、それも絡んでいる。

【議案第48号】令和7年度南島原市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)

【議案第49号】令和7年度南島原市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

【請願第4号】ゆたかな学心の実現・教職員定数改善をはかるための2026年度政府予算に係る意見書採択の請願について

議員定数等調査検討
特別委員長報告

松永忠次 委員長

本委員会は、近年の経済状況や市の財政状況、近隣市議会の動向を踏まえつつ、市民の負託に応えうる議員定数及び報酬の改定に必要な項目の調査研究をする必要があるとの判断から、本年3月に設置し、協議・検討を行ってきた。

議員定数については、

県内各市や人口3万5千人から4万5千人規模の類似都市等の状況について資料収集を行うなど、現状の把握に努めるとともに、委員会の参考資料とするため、議員へのアンケート調査を実施し、慎重に協議を重ねてきた。その結果、本市が直面している人口減少や、既に県内外の市で定数削減の動きが進行している現状を鑑み、議員定数の削減は回避できないと判断し、次の改選から、現行

の19人から2人減の17人とした。

議員報酬については、他自治体の状況を勘案すると、市長の諮問機関である特別職報酬等審議会において審議され、議会に提案されるのが一般的であることから、本委員会においても市長に提言することを確認した。

議員報酬額に関する意見としては、「市の財政状況や補助金9千万円の返還がなされていないことなどを考慮すると現状維持」の意見もあったが、「20年間据え置きであることや物価高騰、議員のなり手不足を理由に増額を支持する」「物価上昇や同規模自治体との比較を根拠に妥当とする」「多様な層の立候補を促すため、増額は必要」「議員活動の質向上と生活保障のため」など増額の意見があった。

具体的な増額幅は2万円から10万円と幅広い意見があり、最終的な額としては、他市の状況を基に、現予算を超えないことを念頭に、議員報酬月額4万円の増額を、市長に対して特別職報酬等審議会への諮問を提案することとした。

また、平成18年度の合併から議員定数を30人から19人へと削減してきた一方、議員報酬の改定は見送られてきたことを考慮いただき、今回の報酬の増額についてご理解いただきたい。なお、議員定数2名削減による報酬を除く経費については、4年間で約1千万円の削減となる。

結びに、今回の議員定数削減並びに報酬の増額により、これまで以上に議員一人ひとりが、議員の責務に対する認識を高めるとともに、資質の向上に努めることで、市議会として市の発展に寄与していきたい。

Report
01

議会運営委員会視察研修報告

委員長 中村 哲康

—《議員定数及び報酬の改正について》—

■7月24日(木) 【えびの市議会】

●定数：14人→10人 ●報酬：30万4千円→40万円

■7月25日(金) 【小林市議会】

●定数：19人→16人
 ●報酬：31万3千円→37万5千円～42万5千円の範囲内(現在、市長に特別職報酬等審議会開催を依頼)



【委員長所感】

人口減少に伴い議員定数の削減も必要ではあるが、削減されれば民意が反映されにくくなる問題も考えられる。議員削減によるデメリットにも配慮して議員定数の課題に対応していく必要があると感じた。

また、議員定数や報酬については、市民の理解を得ることが大事であり、これまで取り組んだ定数減(報酬は現状維持)も考慮した上で考えるべきであると思った。

議員をとりまく諸課題の解決に向け、市民の理解が得られるよう、議会が一丸となって取り組んでいく必要があると感じた。

Report
02

広報編集特別委員会視察研修報告

委員長 井上 修一

—《議会だよりの編集方法・発行状況について》—

■10月7日(火) 【うきは市議会】

議会広報紙の改革を数年かけて実施。印刷業者選定要件にデザイン要素を追加。現在読まれている方は引き続き読まれるだろうということで、20代～40代をターゲットとし、「伝える議会だよりの」から「伝わる議会だよりの」を目指して取り組まれていた。

■10月8日(水) 【大分市議会】

紙面の見直しのため専門家を招き意見交換を実施。現状と課題を洗い出し、「市民と議会を“つなぐ”、結ぶ。市議会だよりの」から、「市民と議会の“つながり”。を意識した紙面づくり」へと方向性を見直した。



【委員長所感】

双方(うきは市・大分市議会)共に、読み手を第一に、記事は簡潔に、表紙見出しは、解りやすくインパクトのある表現で細かい所まで創意工夫され、参考とさせていただく内容(事項)の多い有意義な研修となった。